

教育研究業績概要

氏 名					福田 八寿絵					()				
研究分野					所属学会等の名称									
社会薬学、社会医学、医療社会学、医療人教育 リスクコミュニケーション、意思決定支援、多職種連携					医学教育学会、日本薬学会、初年次教育学会、日本癌学会、日本社会薬学会。日本ヘルスコミュニケーション学会、日本生命倫理学会、日本医学哲学学会、日本医事法学会、日本公益学会、日本医療安全学会 International Association for communication in Healthcare (EACH)									
担当授業科目名														
医療の倫理学、医療人底力実践（基礎Ⅱ）、チーム医療Ⅱ、医療人底力実践（応用）、医療人底力実践（展開）														
教育上の能力に関する事項														
事 項					年					概 要				
1 教育の実践例、教育に関する評価等 課題解決型講義					2011年～					SGD(スモールグループディスカッション)を導入し、学生自身が課題について考え、取り組むことができるよう指導。				
2 作成した教科書、教材、指導書等														
1. テキストブック生命倫理 第2班					2022年1月					著書 霜田求編 霜田求 福田八寿絵 西村高宏 他 13名 福田八寿絵 第6章 子どもの医療 pp61-72。				
2. 『テキストブック生命倫理』					2018年1月 2018年8月改訂版					共著書 霜田求編 霜田求 福田八寿絵 西村高宏 他 13名 福田八寿絵 第6章 子どもの医療 pp61-72 法律文化社				
3. 『保健医療福祉のための臨床推論』					2016年					北島政樹総編集 福田八寿絵(担当:分担執筆, :社会保障制度の理解)朝倉書店				
4. 『医療人のための底力実践』					2020年					福田八寿絵 第1部第1章第3講 コミュニケーションⅡ 42-51頁 三重大学出版会 福田八寿絵 第1部第2章第2講 医療安全とKYT 125-134頁 三重大学出版会 福田八寿絵 河尻純平 林雅彦 小澤淑子 第1部第2章第3講 プレゼンテーション 135-148頁 三重大学出版会 河尻純平 福田八寿絵 鎮西康雄 医療人底力実践(学科プログラム) 170-173頁 三重大学出版会				
5. 『医療人の基礎知識』					2020年					福田八寿絵 第1部第2章6講 医療の倫理学 患者中心の医療の実現のために 臨床倫理 36-37頁 三重大学出版会				
その他 2編														
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等														
慶應義塾大学大学院法務研究科招聘講演					2014年10月11日					EUにおける人の移動と保健医療政策について法務研究科大学院生を対象に講演した。				
職務上の実績(学術団体や社会等における活動)に関する事項														
事 項					年					概 要				
1 資格、免許、特許、受賞等 薬剤師免許					1984年					厚生大臣				
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等 学会理事					2018年～現在					日本公益学会理事				
研究業績等に関する事項														
著書名、報告書名等				単・共著の別	発行年	発行所等の名称			著者名・ページ数等					

(著書)					
1. 『テキストブック生命倫理』 第2班	共著	2022	法律文化社	霜田求編 福田八寿絵 第6章 子供の医療 pp. 61-72	
2. 『現代国際関係学叢書』 第5巻	共著	2019	志学社	宮脇昇編著 福田八寿絵 担当執筆 「たばこ規制のグローバル・ガバナンス —グローバル・ヘルスの争点化—」 pp196-214	
3. 『希少疾患用医薬品の適応拡大と事業性評価』	共著	2018	技術情報協会	福田八寿絵 上池あつ子 堀玲子 他 福田八寿絵 担当執筆 第1章 「欧州における希少疾患製品 開発動向と今後の疾患領域の考察」 pp. 3 - 11	
4. 『テキストブック生命倫理』	共著	2018	法律文化社	霜田求編 霜田求 福田八寿絵 西村 高宏 他 13名 福田八寿絵 担当執筆 「第6章 子どもの医療」 pp61-72	
5. 『医療系学部のための「医療と社会」入門（改訂版）』	共著	2018	ムイスリ出版	大滝恭弘 編著 大沼麻実、加藤大裕 筒井秀代、福田八寿絵、 担当執筆（福田八寿絵 大滝恭弘） 第5講 患者と医療従事者との関係と コミュニケーション 67-74 頁。 第12講 薬害と薬事行政 129-142 頁 第13講 予防接種 143-151 頁。 第14講 生命倫理 ① — 生に関する 問題 153-162 頁。 第15講 生命倫理 ② — 死に関する 問題 163-180 頁。 福田八寿絵 福田耕治 担当執筆	
6 『EU・国境を越える医療：医療専門職と患者の自由移動』	共著	2011	文眞堂	序章「グローバル化時代の医療専門職 と患者の越境移動」1-11 頁 第2章「EU各加盟国の医療保障・医療 保険制度の比較」35-83 頁 第3章「EUにおける医師の自由移動」 第4章「EUにおける歯科医師の自由移 動」114-124 頁 第5章「EUにおける薬剤師の自由移動」 第6章 EUにおける看護師・助産師の 自由移動 142-172 頁 第7章「EUにおける患者の自由移動」 第8章「人的資源としての医療専門職 とその管理」203-226 頁 終章「欧州市民のための医療保障と医 療サービス、貿易自由化の課題」 227-247 頁	
その他 5冊					
(報告書等) 文部科学省科学研究費（基盤研究C）報告書	単著	2020		医療用医薬品の高齢患者向け安全性 情報提供ツールの開発	
学術論文 学会発表等の題名		発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等	

<p>(学術論文)</p> <p>1. Educators' Psychosocial Burdens Due to the COVID-19 Pandemic and Predictive Factors: A Cross-Sectional Survey of the Relationship with Sense of Coherence and Social Capital”</p> <p>2. Knowledge and preventive actions toward COVID-19, vaccination intent, and health literacy among educators in Japan: An online survey</p> <p>3. Risk awareness, medication adherence, and driving behavior as determined by the provision of drug information to patient</p> <p>4. Effect of a Japanese Drug Alert Pictogram on Medication-Taking/Driving Behavior</p> <p>5. Parents' attitudes towards and perception of involving minors in medical research from the Japanese perspective</p> <p>6. Pension Policy Regime and the Open Method of Coordination in the European Union</p> <p>7. . Global Governance of Dual Use in Biomedical Research: Cooperation between the EU and Japan on How to Minimize or Prevent Misconduct and Misuse</p> <p>8. 高齢者の同意能力評価-患者の保護と自己決定の尊重</p> <p>9. EU・欧州諸国における医療技術評価-日本への導入の可能性と課題</p> <p>10. EU 希少疾患用医薬品（オーファンドラッグ）戦略—患者の医療保障・成長戦略・医療財源の持続可能性とその課題</p> <p>11. 子どもの同意能力評価をめぐる倫理的問題と医療専門職の役割</p> <p>12. Fukushima Nuclear Power Plant Accident : Issues on Radiation monitoring and its relation to public health</p> <p>13. 医療記事評価制度の可能性と課題—オーストラリア、カナダ、アメリカの制度を事例として</p> <p>14. EU 公衆衛生政策とリスボン条約-アルコール政策を事例として</p> <p>15. Media Coverage concerning Sexually Transmitted Infections in Japan</p> <p>16. EU における臓器提供の同意方式をめぐる国際的調整のあり方と倫理的課題</p> <p>17. HPV ワクチンの臨床利用をめぐる倫理問題—予防接種義務化とワクチン政策に関する一考察</p>	<p><u>Yasue FUKUDA</u>, Koji FUKUDA</p> <p><u>Yasue FUKUDA</u>, Souji Ando, Koji FUKUDA</p> <p><u>Yasue Fukuda</u>, Shuji Ando, Moemi Saito</p> <p><u>Yasue Fukuda</u>, Shuji Ando, Moemi Saito</p> <p><u>Yasue FUKUDA</u>、Koji FUKUDA</p> <p>Koji FUKUDA, <u>Yasue FUKUDA</u></p> <p><u>Yasue FUKUDA</u></p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p> <p>Koji FUKUDA, <u>Yasue FUKUDA</u></p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p> <p><u>Yasue FUKUDA</u></p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p>	<p>International Journal of Environmental Research and Public Health, 19(4):2134 Follow journal, DOI: 10.3390/ijerph19042134</p> <p>Plos One 2021 https://doi.org/10.1371/journal.pone.02575521</p> <p><i>Patient Education and Counseling</i> On line 28 February 2020</p> <p><i>Traffic Injury Prevention</i> Volume 21, 2020,18-23</p> <p><i>BMC Medical Ethics</i>, 2018, 19:91 https://doi.org/10.1186/s12910-018-0330-1</p> <p>HANNANN Univ. Press 2016</p> <p><i>The European Union and Japan: A new chapter in Civilian Power Cooperation ?</i> Routledge 2015</p> <p>日本生命倫理学会編、『生命倫理』第24号 No. 1、145-153 2014</p> <p>日本医事法学会編、『年報医事法学』第29号、日本評論社、25-33頁 2014</p> <p>日本 EU 学会編、『日本 EU 学会年報』第34号、有斐閣、263-285 2014</p> <p>日本生命倫理学会編、『生命倫理』第22号、67-74頁 2012</p> <p><i>Journal of epidemiology and community health</i>, pp.1-2. 2012</p> <p>日本医学哲学倫理学会編『医学哲学・医学倫理』第28号 35-43頁 2012</p> <p>日本 EU 学会編、『日本 EU 学会年報』第31号、有斐閣、265-289頁 2011</p> <p><i>Formosan Journal of Medical Humanities</i>, pp.5-15 2011</p> <p>日本生命倫理学会編、『生命倫理』第21号、120-128頁 2010</p> <p>日本医学哲学倫理学会編『医学哲学・医学倫理』第26号 pp.52-59 2009</p>
--	--	---

<p>18. The Movement of Medical Professions and its implications in the European Union</p> <p>その他 10 編</p>	<p>Yasue FUKUDA</p>	<p><i>Journal of Public Interest and Common Goods Studies</i>, Vol.9. No.1, pp.43-49 2009</p>
<p>(学会発表等)</p> <p>1. 希少疾患用医薬品の開発政策の医療保障、医療財源に与える影響—日米欧の国際比較の視点から</p> <p>2. 超高齢社会の地域包括ケアにおける AI (人工知能) をめぐる法的社会的倫理的課題—人間中心の多機関・多職種連携のガバナンス—</p> <p>3. 医学部 1 年生の社会的スキルの変化とコミュニケーションスキル学習への意識の男女差</p> <p>4. ピクトグラムの評価に個人属性が与える影響の検討</p> <p>5. 医療における人工知能の利用と公益 (招待基調講演)</p> <p>6. 自動車運転の禁止薬に対する注意喚起を目的としたピクトグラムの効果評価—薬局薬剤師に対するアンケート調査の結果から</p> <p>7. 自動車運転に影響を及ぼす医薬品に対する薬局薬剤師の対応調査</p> <p>8. 子供の意思決定に関する親の意識・態度—国際比較の視点から</p> <p>9. IPE (Inter-Professional Education) 授業における救急シナリオの協同開発と学修成果</p> <p>10. 自動車運転に支障のある医薬品の規制—リスクコミュニケーションの視点から</p> <p>11. 医療教育におけるヒューマニティ・コンピタンスをいかに育成し、評価するのか</p> <p>12. 臨床応用を目指した CYP3A5 遺伝子多型診断法および CYP3A5 が代謝に関わる薬物のスクリーニング法の確立 (薬物治療と遺伝子多型)</p> <p>13. 高齢者の意思を医療行為の選択にいかに反映するのか—患者の同意能力・選択の自由の保障と医療保障</p> <p>14. EU・欧州諸国における医療技術評価—日本への導入の可能性と課題—</p> <p>他 多数</p>	<p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵、福田耕治</p> <p>石川ひろの、大石昇、福田八寿絵、福里利夫、横村浩一</p> <p>福田八寿絵、齋藤百枝美</p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵、中村英里、高橋賢、齋藤百枝美</p> <p>福田八寿絵、中村英里、高橋賢、齋藤百枝美</p> <p>福田八寿絵</p> <p>金子一郎、相磯光彦、楯直子、上野公子、岩崎 隆、福田八寿絵、筒井秀代、秋山暢、田中篤、三宅康史</p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p> <p>松本准、廣澤伊織、加藤芳徳、福田八寿絵、前澤佳代子、百瀬泰行、中村 裕義、山田治美 他 3 名</p> <p>福田八寿絵</p> <p>福田八寿絵</p>	<p>第 49 回日本医事法学会研究大会 (九州大学) 2019 年 11 月</p> <p>日本生命倫理学会第 31 回年次大会 (東北大学) 2019 年 12 月</p> <p>第 51 回日本医学教育学会大会, 2019 年 7 月 (京都府立大学)</p> <p>第 5 回日本医療安全学会 2019 年 2 月 10 日 (東京大学)</p> <p>日本公益学会 2018 年 10 月 28 日 (産業能率大学)</p> <p>セルフメディケーション推進協議会 学術フォーラム 2018 年 10 月 (仙台)</p> <p>日本社会薬学会第 37 回年会 2018 年 10 月 (日本大学)</p> <p>第 10 回ヘルスコミュニケーション学会 2018 年 9 月 (九州大学)</p> <p>第 50 回日本医学教育学会大会 2018 年 8 月 (東京医科歯科大学)</p> <p>第 4 回日本医療安全学会 2017 年 3 月 1 (東京大学)</p> <p>日本生命倫理学会第 28 回年次大会 2016 年 12 月 (大阪大学)</p> <p>第 25 回日本医療薬学会年会 2015 年 11 月 (パシフィコ横浜)</p> <p>日本生命倫理学会第 25 回年次大会於 2013 年 12 月 (東京大学)</p> <p>日本医事法学会 43 回研究大会 2013 年 11 月 (南山大学)</p>
<p>(その他)</p> <p>文理融合シンポジウム ES 細胞、iPS 細胞の研究推進と法的・知的財産法的問題点</p>	<p>高林 龍、朝日 透、内田 勝一、岩志 和一郎、浅島 誠、甲斐 克則、梅澤 明弘、高倉 成男、大和 雅之、福田八寿絵</p>	<p>早稲田大学知的財産拠点形成研究所 主催 文理融合シンポジウム 2012 年 1 月 21 日 (早稲田大学)</p>